

## 『週報ができるまで』

吉田真司

NO.2577、これは当教会の「週報」の本日の番号です。それが意味するところは主日礼拝が2577回積み重ねられてきたということ。そしてその都度の礼拝プログラムや活動の報告が収められた大切な歴史資料です。

神学生の頃、牧会学の教授から「週報の巻頭言は牧師にとって大切な仕事」と教わりました。限られた文字数で、伝道や教会形成のための牧師からのメッセージを分かりやすくまとめて発信すべく、週毎に取り上げるテーマに思いを巡らせ執筆します。

「執筆」とは言っても、今は「タイプ」と言った方が良いでしょう。今は昔、土曜夕方までガリガリと削るように原稿に手書きする父の「(まさに)執筆」の音が心地よいもので、「さあ、週報作るぞ!」との一声で、会堂後ろの印刷室に集まるのが吉田家の週課でした。父の原稿ができるや否や、版画のような仕方でガリ版機にて一枚一枚投写する作業。ローラーで黒インクを染み出させるのは父、張り付いた印刷用紙を剥がして、床一面に敷いた新聞紙の上に重ならないように並べて乾燥させ、そして乾いたものを一枚ずつ折り、教会員のBOXに入れていくのが私たち子どもによる分業でした。

それは印刷過程における分業ですが、その原稿作成に入る前の業に関わる人たちは更に多くおられます。礼拝プログラムが出来る、ということはそのための奉仕者が整えられているということ。各種報告、献金や集会報告にしても、それらの報告の向こう側に、関わっておられる多くの人々の顔が見えてきます。そうして、ジグソーパズルのように、一つひとつの働きが組み合わさって毎主日の週報が完成していくのです。

2020年初頭より、教会員の皆さまには会堂に集まれなくても手に出来るために、週報のデータを事前に配信してきました。またその間、印刷と二つ折り(挟み込み)作業は事務スタッフに担っていただきました。そうして今月より、その「印刷と二つ折り(挟み込み)作業」をコロナ以前の形(奉仕チームによる働き)に移行しました。土曜日の作業となります。そしてその働きも含め、教会には人知れずの奉仕に関わってくださっている方が数多くおられます。一枚の週報を通して、それらの働きへの想像と感謝を共にしていただけましたら幸いです。NO.2577の重み、半世紀を超え、当教会の歴史を担ってこられた方々の信仰への回想も合わせつつ。——「あなたがたはキリストの体であり、また、一人一人はその部分です。」(一コリント 12:27)

## 教会の定例集会

主日礼拝	日曜日	午前 9:00~10:00 (相模原礼拝)
		午前10:40~12:00 (会堂礼拝)
教会学校	日曜日	午前 9:30~10:20
(嬰兒、幼児、小学生、中高生、青年、成人、英語、聖書入門の各クラス)		
祈り会	水曜日	午後 7:30~9:00
金曜集会	金曜日	午前10:30~12:00
家庭集会 (相模原)	第二火曜日	午前10:00~12:00 (竹村家)
(すずかけ台)	第三木曜日	午後 1:30~3:00 (長谷川家)

## 日本バプテスト相模中央キリスト教会

〒242-0007 大和市中央林間4-24-6 TEL&amp;FAX046(274)3708

牧師：吉田真司 音楽・子どもユース担当主事：江原美歌子 協力牧師：斎藤剛毅

<http://www.sccc.sakura.ne.jp>